



# サトリの ココロ

多くの人が孤立感、生きにくさを感じる今、  
仏教に興味を持つ人が増えています。  
僧侶に聞く、弱い自分と向き合う方法——

身延山奥之院思親閣別当  
身延山松井坊住職  
望月海俊さん

第60回

## 親孝行の山のお堂で 本来の親子のあり方を考えて



もちづき・かいしゅん 1964年生まれ、山梨県出身。日本体育大学を卒業後、立正大学へ編入。卒業後も1年間聴講生として学んだ後、1989年に故郷である身延町に戻り、身延山高校の教員となる。1991年より身延山長松閣松井坊住職に。2014年4月、身延山奥之院思親閣第52代別当に就任。身延山奥之院思親閣／山梨県南巨摩郡身延町身延4223 ☎0556-62-0686

身延山は日蓮聖人がお父さん、お母さんを偲んで登られたお山。日蓮聖人はここ身延山在山の9年間、住まいのある山麓から毎日山頂に登り、生まれ故郷の千葉県房総半島・小湊の地を拝し父母を偲んだ、という由縁から、この山頂のお堂に、親を思うお堂「思親閣」という名前がつけられました。

昨今は、子が親の命を断つたり、逆に親が自分の子どもを手にかけてたりという痛ましいニュースが頻繁に飛び込んできます。今の自分の存在があるのは、命を授けてくれた両親のおかげ。それと同時に、

その命を次の世代につないでいく子どもたちに感謝することも大切なこと。ですから、子どもが親を思うお堂の「思親閣」であると同時に、親が子を思う「思親閣」でもなくてはならないと感じています。それが「思親」の本当の意味であり、日蓮聖人の大切な教えであると考えています。

ここに来れば日蓮聖人の父母の像もあります。このお堂が本来の親と子のあり方や家族のあり方を思い起こしていただけるきっかけになれば、と心から願っています。

### 母親への感謝の気持ち 「母への手紙」に託して

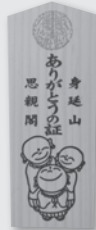
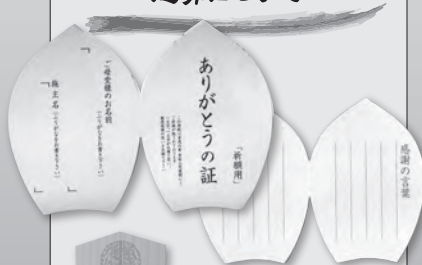
折しも来年は日蓮聖人のお母さんである妙蓮尊尼の第750回遠忌。これをみなさんがお母さんへ感謝する機会としていただきたく、思親閣では「母への手紙」を企画いたしました。

普段は恥ずかしくてなかなか言えない感謝の気持ちを手紙に綴り、日蓮聖人や妙蓮尊尼を介してお母

さんに届けてみませんか。お母さんのことを思い浮かべながら自分で文字を綴ることは、心の会話にもつながります。

親の介護などでとても感謝の気持ちなど持てないという方は、いづれ介護が一段落して、改めて親の存在をありがたく感じたときに思いを寄せていただければと思います。「母への手紙」は来年12月まで受け付けていますが、それ以降は「両親への手紙」としてずっと続けていく予定です。

### 「母への手紙」の 応募について



「母への手紙」は思親閣で書くことができるほか、郵送でも受け付けています。用紙は「祈願用」と「供養用」にわかれており、手紙を納めると「ありがとうの証」という思親閣特製のお守りがもらえます。納経料は3000円。募集期間は2016年12月末日まで。詳しくは下記HPへ。

<http://www.kuonji.jp/okunoin/>



左／奥之院は標高1153m。山麓からロープウェイで約7分で山頂駅に。  
右／境内には日蓮聖人が植えたものと伝えられる、樹齢700年以上の「御手植杉」が4本ある。

